

## 倭訓栞

谷川士清 文化二年（1805年）。一卷から十三卷迄は安永六年、十四卷から二十八卷迄は文化二年、二十九卷から四十五卷迄は文政十三年、七十五卷迄は文久二年、九十三卷までは明治十六年に刊行された。戸隱が記されている「登」の部は十八巻で文化二年刊。

とがくし 信濃國に戸隱明神まします古事記に隱ニ立磐戸之戸腋一とあれはとかくれと訓すへし神名式に水内郡白玉足穂ノ命ノ神社健御名方富ノ命彦神別ノ神社の二社即ち是なるにや今戸隱ノ奥ノ院は手力雄ノ命中ノ院は思兼ノ命寶光院は表ウハ春命と傳へたり神社考に月ノ神之子手力雄ノ神其子片倉邊ノ神者諏方ノ神也と見ゆめれと神名系譜ともにいぶかし舊事紀に天ノ表春ノ命ハ思兼ノ命ノ兒信乃阿智ノ祝等ノ祖といへり伊那ノ郡に阿智ノ神社ましますり戸隱山九頭龍ノ窟は地主神ノ九頭龍權現也毎夜米三升を炊て並に梨子をもて神供とすといへり

註 「近代デジタルライブラリー」に成美堂・明治三一、

三二年刊の画像がある。「倭訓栞・2」（DOI

10.11501/863678）の182コマ目。永続的識別子

[info:ndljp/pid/863678](http://info.ndljp/pid/863678)